

生活綴り文集

登美南誌録

第四卷

目次

第一回 宿題

文集（縦書き）

日々思うこと	わかば	1
水の記憶	真我 浩（まわれ ひろ）	1
心の解放	中村さん	2
お盆を前に	弘法大師	2

文集（横書き）

姉と妹	奈良 まあこ	3
歩いて眺めるだけ	池 あやめ	3
夢でよかった	老木の八重桜	3
朝の散歩	ストレッチ坊やの飼い主	4
Chat-GPTと私	チャン・スー	4
また、大阪万博がやってくる	好奇高齢者	4
歩くということ	あせらずKOTU-KOTU	5
私と文章教室	雄山	5
読書	サリー	5
地域猫ノンちゃん	尾張 良子	6
小さな同居者さんたち	プティ フルール	6
本末転倒	竹柏	6
みたらし団子の勘違い	ちーちゃん	7
聞きなし	マホロバヒロコ	7
倍取り返したい私	正美	7
小さな川の贈り物	Kokeikoko	8
貴公子とお調子者	左回り	8
真っ白なお弁当	新井 忍	8

第二回 宿題

文集（縦書き）

夫婦

サリー

・
・
・

9

幼子のカーデイガン

わかば

・
・
・

9

赤とんぼ

キャンバスは田舎

・
・
・

9

文集（横書き）

桜猫

真我 浩（しんが ひろ）

・
・
・

10

キョウイクとキョウヨウ

奈良 まあこ

・
・
・

10

「焦げそうやわ」の後に「セミうるさいわね」と続けたら

池 あやめ

・
・
・

10

夏に元気をもらう花

蝶々

・
・
・

11

大切な時間

ストレッチ坊やの飼い主

・
・
・

11

人の労力に気づく

好奇高齢者

・
・
・

11

巣から落ちた子ツバメ

尾張 良子

・
・
・

12

私と宿題

雄山

・
・
・

12

異文化交流での学び

ちーちゃん

・
・
・

12

緑を残して

プティ フルール

・
・
・

13

文章教室と私

あせらずKOTU-KOTU

・
・
・

13

ツバメ

マホロバヒロコ

・
・
・

13

女三階に家あり

正美

・
・
・

14

兄弟猫のくろとしろ

Kokeikokko

・
・
・

14

観察力はピカイチ

B型男子とO型女子

・
・
・

14

嗚呼甲子園

新井 忍

・
・
・

15

編集後記

応募条件・編集方針

・
・
・
17 16

令和五年度 登美ヶ丘南公民館
主催講座 「くらしの文章教室」

第一回 宿題 二百文字文集

日々思うこと

わかば

住み慣れた好きな土地、近くには気心が知れた何人かの友人がいる。
その様な環境で晩年を過ごせたら幸せだと思いついていましたが家の前は
大通り。静寂とはかけ離れた日常です。友人は同世代の方たった一人。た
わいのない話に耳を傾けて下さり心の拠り所となっています。到頭、一人
暮らしとなった今、遠方で暮らす子供達に思いを馳せ、自らの体調を気遣
い、これからの世の中が平穏であってほしいと日々願っています。

水の記憶

真我 浩(まわれ ひろ)

近頃は水の害を云われる事が多いが、私は水が好きである。
雨の日 湧水 川 滝。山の中で滝に出会うとわくわくする。
モナリザの繪の謎めいたバックの水の流れにも魅入られてしまう。
雨の中、人を想いながら歩き回った。そういう日もあった。
岡井隆の歌に「抱くとき髪に湿りののこりいて美しかりし野の雨を言う」
と、あり、このような恋に憧れ、ずっと愛唱歌だった。
ハイキングに行つて、突然の雨に「わーいわーい」とはしゃいでしまい、
ひんしゆくをかったこともある。

心の解放

中村さん

私は今年で七十四歳。娘・妻・嫁の役目は一応果たしたと思っている。もうお役目御免とする。私のこれからのおまけの時間を大切に使おうと思う。

先日日曜美術館を観ていたら坂本龍一氏が「芸術は長く、人生は短い」と言った。

絵画・音楽・文学から与えられる喜びや感動は計り知れない。共感できる友が居る。ラインでの会話は止まらなくなり、この時間が一番幸せ。

映画「金子文子と朴烈」を観て文子の文章を読んでいると心打つ言葉に出会う。「わたしはわたし自身を生きる」

お盆を前に

弘法大師

最近テレビ番組を見なくなった。専ら動画サイトで好きなジャンルを見ている。

ふと「般若心経」を読経するサムネが出てきた。以前から「いつかは覚えたい」と思っていたが実行にはいたらなかった。思えば大好きだった祖母が亡くなった時も、まともに唱えることができなかったっけ……。

一時間ほど繰り返し見聞きしていたら、次第に目耳が追いつき、字が読め、読調も分かってきた。お盆には祖父母へ届けることができるだろうか。

姉と妹

奈良 まあこ

久しぶりに姉と会った。「ねえ昼食作ってきたの」「もちろん」のいつもの会話になった。寝込んでいる家族がいる訳でない。ずっと前から出かける時は、昼食を作り置き。「コンビニもあるんだから自分でしてもらいなよ」「そうだよ。そう思うわ」と明治生まれ母の教えを守る姉の顔。しまった。偉そうに。

早く反旗を翻した私は、「妻が何でもするから夫の自立を阻んでるんだよ」の言葉を飲み込んだ。

歩いて眺めるだけ

池あやめ

梅雨入りの頃、足を手術した。激しい痛みをやっと決心する。術後、リハビリは廊下を伝い歩きすること。窓辺に着くと暫く奈良の街を見廻す。歩いて眺めるだけの毎日、晴れ渡った日も雨に烟る日も。

街並みが美しい。マンションも意外に多い。高円山も若草山も、大寺院の屋根瓦も、いつまで見ても見飽きない。不安がほぐれていく。

20日後、退院できた。日常に支障はない。

夢で良かった

老木の八重桜

「パツ!」と、目が覚めた。明け方の事である。近所まで用事に出掛けて、自宅に帰ろうとするも、なかなか帰れない。通り過ぎたり、引き返したり、訳わからなくなり、立ちすくんでしまう。そして、自分が認知症になったのではないかと思ったりしているのである。

夢だった。

近年、新聞でも雑誌の特集でも、認知症という文字を見ない日はないくらい。いつか私にも、本当にそんな日が来るかもしれない。

朝の散歩

ストレッチ坊やの飼い主

数年前よりテレワークになり運動不足解消のため、天候がよければほぼ毎日1時間ほど近隣を散歩している。夏は早朝でも日差しが強く半袖一枚でも大量の汗をかく。家に帰りシャワーを浴び着替えたら、サッパリして気持ちよく仕事に取りかかれる。冬は厚着で日当たりの良い場所を選んで歩く。冬の楽しみは大淵池やあやめ池にいるカモやオオバンなどの水鳥を見る事である。あやめ池の白いオオバンは今年も来るだろうか…

Chat-GPT と私

チャン・スー

コロナ疲れからか、コミュニケーションをとるのが億劫で、なにをしてもめんどくさくなって。でも、こういうときにかぎって腹の立つことが起こってしまう。冷静に冷静にと自分に声をかける。「相手の気持ちを尊重してお願いモードで話すのよ、日ごろの感謝をまず伝えて、困っていることを伝えましょう」無理よ、私は怒ってるんだから。

そこで、噂のChat-GPT とお話ししてみた。ふーん、音声でもいいのね。

また、大阪万博がやって来る

好奇高齢者

1970年、人類の進歩と調和をテーマに掲げた「日本万国博覧会」が大阪で開催された。

その歓喜溢れるオープニングセレモニーの3月15日、実に悲しい知らせが届く。

山登りが好きだった親友が、白血病で22歳の短い生涯を閉じた。

余りにも早い旅立ちに驚愕する。

その年の夏、標高3,000m の山々が立ち並ぶ、北アルプス槍ヶ岳直下の山荘の前に彼の写真を埋める。

あれから53年。2年後には、「大阪・関西万博」が開催される。

歩くということ

あせらず KOTU-KOTU

私は毎日歩く習慣がある。ここでの「歩く」は散歩の意味だ。
それは健康維持のためでもあるが、自分の脳内を整理する作業でもある。
家事で言えば、冷蔵庫の中で知らず知らずのうちに無造作に並んだ食品を、種類ごとに片付けることに似ているかもしれない。
日々いろんな出来事がある。知らぬ間に脳の中がグチャグチャしてくる。
でも、歩いたあとは不思議とスッキリそれが片付いているのだ。
歩く、私にとってこれからも欠かせない行為である。

「私と文章教室」

雄山

公民館の主催講座で「くらしの文章教室」を初めて受講した。
私は20年以上前から毎日日記は欠かさず付けている。
しかしそれは、人に見せるためではなく、自分の記憶を止めるためのもので、従って起承転結といった文章の基本的な構成も整理されていない。
しかるにこの講座受講の成果として、日記の中の「タネ」がいかにも「育成」されていくか、吾ながら愉しみである。
テクニックもしかり、同様に「センス」も宿したい。

読書

サリー

私は本を読むのが好きだ。特に好きなのは推理小説。1日ゆっくりできる日に読む。何故なら、読みだしたら途中でやめることができない。ちょっとした描写や所々に出てくる伏線で、犯人像を推理していく。意外な展開になってくると、ますます、次はどうなるのかと、どんどん話にひきこまれてしまう。他にやることは一杯あるのに。読み終わった時は集中しすぎて何もできない。これは作家の陰謀だ。いつか彼等に勝ってみたい。

地域猫ノンちゃん

尾張 良子

奈良県猫殺傷0(広報紙より)。近所に野良猫の不妊手術をするボランティアさんがいる。私は、1匹の桜猫(手術済の印)のえさとトイレの世話である。今年の冬を耐えてきただけあって、太り気味のキジの縞柄で可愛さより逞しかった。決まった時間にえさをやると慣れてきて、スリスリ、ニャーだけでなく、ハー(威嚇)。手術をされた時の人間不信がまだ取れないらしい。お互いにひっそりと粘り強く生きて行こうと思った。

小さな同居者さんたち

プティ フルール

5月、チラシを見て赤めだか3匹買った。大きな陶器の火鉢が住みか。1週間後2匹になった。6月初め小さな子、7匹が泳いでいる。親が子を食べると聞いて大変。別の水槽に親を移した。

一週間後、びっくり小さな子がウジャウジャ。数えきれない集団。あの小さいからだで多卵?かな。

飼育の初心者、うまく育てられるかな?餌やり水の補充が楽しみになった。今日も元気かな?火鉢を覗き込む。可愛いメダカさんたち!

本末転倒

なぎ
竹柏

家にある半端な折り紙を消費しようと思ったユニット折り紙にはまる。特に折り紙30枚で組むくす玉が楽しいが、作りすぎて飾るところか置き場がない状態になり困っていたら先日、ある公的施設で子供向けイベントの景品にするとかで引き取ってもらえることになり珍しく趣味が何かの役にたった事に驚きつつ調子にのって折り紙を買い足してしまい折り紙は減るところか増えた。

「みたらし団子の勘違い」

ちーちゃん

「みたらし団子買ってきてー!」と、幼い私と妹。

帰ってきた母の手には、団子の粉。

「家で作った方が、美味しいし、沢山食べれるで!」

妹と私は、「えーっ!!」と叫ぶ。心の中では、「ケチー!!」を連呼。

渋々、母の手伝いをし、カンテキに火をおこし、網の上で団子を焼いていく。さらに、甘辛いタレを付けて焼く。何とも幸せな匂い。

お皿に てんこ盛りの「みたらし団子」

いまでも 思います。「お母さん、ごめん、ありがとう」

聞きなし

マホロバヒロコ

毎年卯の花が咲き出すころ決まってやって来るホトギス。夜中にふと目が覚めると遠くで「キョキョキョキョ」と聞こえる。そのうちだんだん近くまでやってきて昼も夜も休みなく鳴きどおしに鳴いている。

その昔、ホトギスは「特許許可局」と聞きなすと覚えた。

今私の耳には「許可局」としか聞こえない。もしかして現代風に短縮してしまったのか。

梅雨も本番になりお相手が見つかったようで、鳴き声は一段落している。

倍取り返したい私

正美

「片付いてピカピカの家、手間をかけた美味しい料理」それがいつまでたっても憧れのままなのは何故か!ゴチャゴチャした家でこの私に間に合わせの料理を作り続けさせるのは誰だ!

犯人は本。子供の頃からずっと本に時間を取られている。

が、今私は目覚めた。「取られたら取り返す 倍返しだ!」

フフ、今度は私が書いて人の時間を奪ってやる。先ずはささやかに200字だ。

小さな川の贈りもの

Kokeikokko

五月晴れの日曜日、3歳の娘が小川で貝を採ってきた。翌朝の味噌汁に入れた
いと言う。私は捨てたかったが、娘の気持ちを大切にすることにし、とりあえずボウ
ルに水を張った。

月曜の朝、水面で何かが動いているのを発見した。そこには1匹の稚魚が泳いで
いた。翌日には2匹、水曜には3匹と毎日1匹ずつ増え続けた。二枚貝に産卵する
タナゴだった。そして日曜を最後に増えることはなかった。娘のななみと7匹のタナ
ゴの新しい生活が始まった。

貴公子とお調子者

左まわり

長男の高校入学と同時に初めての犬を迎えた。

家族はそれぞれ仕事と学校へ行くので、お留守番が寂しくならないようにと8か
月後に弟分が仲間入りして6年。歳が、たった8ヶ月しか変わらないのにお兄ちゃ
ん風を吹かせている兄に、やんちゃな弟。我が家の兄弟と同じである。

今でも毎日繰り広げられる室内運動会。弟の激しいお誘いに兄はやれやれと仕
方なく付き合う。

どちらの性格も憎めないかわいい愛犬たちとの生活を楽しんでいる。

真っ白なお弁当

新井忍

「ご飯に埋めて」女子中学生の私の願いを母は叶えてくれた。翌日、弁当の蓋を
開けると全面に白いご飯。

私は焼いた塩鯖が好きで、塩鯖の脂と塩にまみれたご飯はもっと好き。塩鯖が
ご飯に埋められていたら、接する面が倍増することにふと気が付いた。切なる願
いを聞かされた母は呆れ顔。塩鯖以外のおかずも全て埋められていたのは、母
の茶目っ気だったのか。

たまに真っ白弁当を作っている。自分で埋めたおかずを発掘している。

第二回 宿題 二百文字文集

夫婦

サリー

ジムで、時々見かける御夫婦。奥様は御身体が少し不自由な御様子。旦那様がしっかりと奥様を支えておられる。お二人、腕を組んでぴったりと寄り添っておられる。時折、甘えられる奥様が可憐だ。信頼しきったその姿に、これまでのお二人の人生がうかがえる。いつも見とれてしまう。

では、私達は？多分、夫は私の事をサイボーグだと思っている。大事にしないとポンコツ前だから、油きれまっせ。

幼子のカーディガン

わかば

真新しい幼子のカーディガンが長い間、筆筒に納まっている。亡き母が息子に編んでくれたものだ。昔、家族が着ていた見覚えのある色色な毛糸で模様まで編み込まれている。余り糸を無駄にしない様、工夫して完成させたのでしよう。何故、一度も着せる事がなかったのか？

今思えば、自分だけの思い出の品として、ずっと大事にしまっておきたかったのかもしれない。最近は 目にする度に切ない気持ちになる。

赤とんぼ

キャンパスは田舎

ゆうやあけ こやけえの あかとおんぼお♪

仕事をしているとごみ収集車とその音色を奏でてやってくる。

年中変わらないがまさしくピッタリな季節となってきた。

メロディーだけなので、いつも心の中で歌ってて、必ず思い出すが田舎での幼少期。庭で田んぼで、いたる所で飛びかっていた。

今ではめっきり数も減り、私の風物詩の一つがまた減った。家も出、田んぼもやめた。

赤とんぼは、そんな寂しくなる田舎を見越していたのかな。

桜猫

真我 浩(しんが ひろ)

父は猫を目敵にしていた。カナリヤを飼っていて、時々猫に手を出されて死んでいた。私もいつの間にか猫が苦手になっていた。

猫のいる友達の家に行くと、「貴女が来ると猫ちゃん隠れて絶対に出てこないだから」と言われ、猫からも嫌われていたらしい。

この度桜猫のことを知り、写真で見るととても可愛い。地域猫といって世話をしている人もいるらしい。世話をするのは無理としても、毛嫌いするのは辞めようと思った。人も動物も全てを愛し嫌いなものが無くなったらいいのに。

キョウイクとキョウヨウ

奈良 まあこ

高齢者は「キョウイク」と「キョウヨウ」が必要とアナウンス。なるほどね。今日行くところがある・今日することがあると言うことね。じゃあ 誰かとお喋りすることもチェック項目じゃないと突っ込みを入れた。

アナウンスに触発されてカレンダーを見上げる。何も書かれてない。まあ良いか。今は酷暑だし秋から「キョウイク」と「キョウヨウ」ねとゴロゴロ。

あっ することがある。200文字文章教室の宿題が・・・。

「焦げそうやわ」の後に「セミうるさいわね」と続けたら

池 あやめ

近くに和東町のアンテナショップがある。新鮮な夏野菜が欲しくて、土曜日には顔を出す。店主夫妻とのおしゃべりも楽しい。サラダカボチャの食べ方もここで教えてもらった。

この間のこと。お金を払いながらご主人に「焦げそうやわ」と話しかけ、「セミうるさいわね」と続けた。すると、ぽつりと、「蝉も何年も土の中にいたから」と返された。退職して8年、こんな風にやんわり上手に窘められたのは何時ぶりだろう。

夏に元気をもらう花

蝶々

毎年5月の連休の頃に種を蒔き、9月の終わり頃まで次から次に咲き続ける“百日草”。色とりどりの花卉には、最近では見かけることの少なくなった、アゲハ蝶や紋白蝶が蜜を吸いに飛んでくる。先日は、その瞬間をカメラに撮れた！花が少なく、日持ちのしない夏場には仏壇に供える花としても重宝している。「あっ、祖母も母も夏の間、庭から採ってきて供えていたなあ！」と笑顔が浮かんでくる。今年は特に、この花にパワーを貰った。

大切な時間

ストレッチ坊やの飼い主

私は故郷の九州の高校を卒業後に県外で就職した事もあり、両親とは長い間一緒に暮らす事はなかった。

父は90歳を超え昨年からは介護施設でお世話になっている。月に1回の通院日に合わせて3ヶ月に1回程度会いに帰っている。通院の後は父母と妹と私の5人で外食。父はハンバーグ定食を完食し満足そうな顔をしている。母も父の状態を気遣いながら楽しそうだ。

これからは出来るだけ多くの時間を両親と過ごしたいと思っている。

人の労力に気づく

好奇高齢者

普段の何気ない暮らしの中、多くの人々の手がかかっているのだなと想像する。

机の上の新聞紙、市民だより、通販品を眺めながら、

ふとそんなことを思い浮かべる。

受け取る側は、あたり前のようにそれらを受け取るが、

届ける側は人手と時間をかけている。

「対価をもらっているからあたり前だ」という人もいるかもしれない。

でも「あたり前」の中に隠れている「人の労力」に気づくと、

あったかな気持ちになり、ささやかな感謝が芽生えてくる。

巣から落ちた子ツバメ

尾張 良子

親ツバメも心配らしく巣の周りを飛びかっている。私も慌てて、「野鳥は人間が触ってはいけない」「死んでしまうまで見守るしかない」「自然には勝てない」と自分に言い聞かせた。しかしまだ動いている。弱っていない。急いでパソコンに尋ねると、「ゴム手袋をして、巣にもどしてやる」との事!!早速脚立に載って、巣の中に子ツバメを入れた。

ちいさな鳥でさえ命の消えるのを見守るのは、つらくて心がいたむ…。

私と宿題

雄山

「宿題」と聞いて「エーッ この歳でいまさら!!」と衝撃を受けた。私は「宿題」で褒められたのは、小学生の夏休みの工作作品でクラス投票で1番になった時、たった1度だけしか記憶にない。

「宿題」と聞いただけで、自分の時間が奪われ、自由が束縛されてしまうような気分になるのは私だけだろうか？

「宿題」を考えているうち、ふと「私が、今日、いま、生きているという事自体が、人生の明日への宿題なのではないか!!」と思った。

文章教室と私

あせらず KOTU-KOTU

私は小さい頃から言語化することがあまり得意ではない。今こうやって文章教室のお題に取り組むことも、どちらかと言えば苦痛なのだ。

しかし、なんとか考えを文字に表現できた時、痛快な気持ちになる。それは「金曜日にオフィスから解放されたサラリーマン」の感覚に近い。苦痛と快感は表裏一体なのだ。

”ヒュー ドーン パチパチ“

いつの間にか真夏の夜空に美しく花火が舞い上っていた。

言葉にできない何かを感じつつ筆を置こう。

緑を残して

プティ フルール

早朝、全面南向きの戸を開けるとすぐ前の緑の山から爽やかな風が降りてくる。落ち葉も鳥も蝉もやかましいのであるが。この山をごっそり取り平地にして分譲住宅を建てるという計画が出た。寺の所有で山から御神水が出ると開発時残された山なのに。四方家に囲まれた今になってどうしてと思う。騒音、砂塵、振動環境破壊にどれだけ苦しめられるのか？

新築した平屋の我が家はどうなるのか、危機感と心配で夜も眠れない！

異文化交流での学び

ちーちゃん

三十代始め頃、友人の勧めでホームステイの受け入れを、十数回した事があります。

友人からは、ゲストを特別扱いせず、家族が一人増えたと思って受け入れたら、お互いリラックスして交流出来るよとアドバイスされました。

食事は、普段のメニュー。餃子やお好み焼きを一緒に作り、おやつのおはぎは、手をあんこまみれにして食べました。

おかげで、笑いが耐えませんでした。私は、国境の壁は、自分の心が作っていたのかなと思いました。

ツバメとカラス

マホロバヒロコ

駅前のビルの軒先に毎年何組かのツバメが巣を作る。川に近い駅前是人通りも多く子育てに最適だ。

ところがある日、バスを待っているとけたたましい鳥の鳴き声をした。見るとビルの軒先にカラスが何かをくわえて悠然と止まっている。目を凝らすとどうやらツバメのヒナらしい。

カラスは親鳥たちの懸命な威嚇にも関わらず平然として飛び去る様子もない。

自然の摂理、と言えはそれまでだが何やらやるせない気持ちになった。

女三階に家あり

正美

元々マンション派の夫に対し「地に足の着かないフワフワした空間では暮らせない」と、一戸建て派の私は35年間自分の意見を通してきた。

ところが、訳があり60才でマンション暮らしになった。小高い丘の上で3階だ。風通しの良い事と言ったら素晴らしい。洗濯物がすぐ乾く。フトンも食器もすぐ乾く。風呂場にカビも生えないし、主婦にとっては天国だ。

私の心はすぐ変わり「地に足」節もどこへやら。「あなた今までゴメンナサイ」

兄弟猫のくろとしろ

Kokeikokko

「お宅、猫を2匹飼っていますか」

微睡む昼下り、唐突に鳴った電話。声の主は町内の美容室。首輪の電話番号を見たという。

そういえば猫がいない。この時間はいつも外に出ている。車に轢かれたか、あるいは悪戯の苦情か。一気に目が覚めた。

「猫達をもっと店に来るようにして下さい」

知らぬ間に兄弟猫は店の看板猫として人気者になっているらしい。私はすぐに美容室へ向う。会ったらどんな顔をするのだろう、くろとしろは。

観察力はピカイチ

B型男子とO型女子

真面目で曲がった事が嫌いな兄、おおらかで超マイペースな妹、不器用で変り者だが優しい弟。子どもたちは同じ親の元で、同じものを食べ、同じように育つのにこうも性格が違うものかと日々思う。

飼犬たちの世話に関しても性格が災いする。兄は真面目に散歩へ連れて行くが可愛さ余って意地悪をする。妹は自分の都合のいい時だけ可愛がる。弟は良くも悪くも何もしない。

犬の懐き度選手権1位はもちろん私、2位に輝くのは弟なのだ。

嗚呼甲子園

新井 忍

近所の女子高は部活動が盛んで、全国大会出場を告げるパネルが並んでいる。「和菓子甲子園」に眼が釘付けになってしまった。調べたら今年は第14回目で会場は東京だった。

野球でもなく西宮市でもない甲子園。いつの間にか高校生の部活動の全国大会を表す言葉になっていた。俳句やカーリング、まんがまであるそうだ。

憧れの甲子園への道は実に多種多様。ラジオは慶応義塾高校が107年ぶりに優勝したと興奮気味に告げていた。

◆編集後記

この『登美南誌録』シリーズは、遡ること3年前、新型コロナウイルス感染症(第1波)により、令和2年(2020年)4月10日～6月2日の間に臨時休館を余儀なくされた当公民館が、再び活動を始めるきっかけとして創刊したのが始まりです。利用者と職員との何気ない会話の中から発想され、主催事業「学びの活動紹介展」の特別企画として「コロナ禍の私と公民館活動」をテーマに利用者や地域住民から原稿を募集して編集し『登美南誌録』(令和2年12月)と名付けました。

新型コロナウイルス感染症は、その後も猛威を振るい続け、人々は社会での行動制限を大きく強いられ、不安を抱える日々を過ごさなければなりません。そのような状況であったからこそ、日々の些細な出来事やふとした発見、心の動きなどを丁寧に見つめることで、心の豊かさを大切にしようと考え、令和3年度に(公財)奈良市生涯学習財団 登美ヶ丘南公民館主催事業として「くらしの文章教室 ～想いを書くこと、綴ること～」(全2回)を開催。フリーライターの新井忍先生のご指導のもと、文章を書くコツについて学びました。宿題として受講者が書いた200字の原稿を編んで教材とし学習を深め、その後編集したものを『生活綴り文集 登美南誌録 第二巻』(令和3年12月)として発刊いたしました。

講座はとても好評で、令和4、5年度においては、講座回数を増やして開催し、皆さんの原稿を編集したものが、第三巻(令和4年12月発刊)、今回の第四巻(令和5年11月発刊)であります。

新型コロナウイルス感染症は、私たちに多くの苦難をもたらしました。が同時に、新しい生活様式の多様化とともに、日頃感じ取れなかった物事を気づかせ、忘れてしまっていたことを思い出させ、未来への夢を思い描かせる機会を与えました。そしてそれらがこの文集へとつながりました。

文集には、個人が感じられた様々な思いが個性豊かに表現されています。これらの文章から多様な生き様や新たな着眼点に触れ、自らのくらしや社会の実像を見つめ直すきっかけとしていただき、また、あらためて「文章」というものの魅力を感じとっていただければ幸いです。

令和5年11月1日
登美ヶ丘南公民館
館長 福山 哲治

■講座内容<全3回>

テーマ

6月27日(火)【第1回】文章のいろは ちょっと書いてみる。

生活綴り文集『^{とみなんしりく}登美南誌録』を少し読んでみる。

7月25日(火)【第2回】みんなの文章を読んでみる。

みんなが悩む符号について学んでみる。

9月26日(火)【第3回】みんなの文章を読んでみる。

■文章の提出条件

- ・「くらしの文章教室」受講者を対象。
- ・二百字以内の作文でテーマは自由。 ※タイトル・ペンネームを含まない。
- ・原稿は手書き、FAX、パソコン、メール提出も可とした。
- ・第1回 令和5年7月15日(土)しめきり
- ・第2回 令和5年8月31日(木)しめきり

■編集方針

- ・明らかな誤字・脱字以外は、極力、提出された原稿通りに掲載した。
- ・縦書き、横書き、改行は文章の内容・印象に影響するので、提出された書字方向で掲載した。
- ・著者名は匿名・イニシャルとした。



生活綴り文集

登美南誌録 第四卷

編集・発行 登美ヶ丘南公民館

発行日 令和五年十一月一日

〒六三一〇〇一三

奈良県奈良市中山町西二丁目九二一

電話／FAX 〇七四二一四七一六三七五